

# わおん通信

2012  
秋号



## CONTENTS

- 2面 ■ 今夏の節電取り組みについて
- 3面 ■ 「見える・わかる・省エネ対策」うちエコ診断
- 4面 ■ 全国各地のとりくみに学ぶ⑥  
2府6県で連携し小水力普及へ

- 5面 ■ 島ノ瀬ダム 小水力発電開始
- 6面 ■ 各協議会や推進員のとりくみ紹介
- 7面 ■ 推進員さんひよっこり訪問記②
- 8面 ■ INFORMATION

# 今夏の節電取り組みについて

和歌山県では、今夏の関西電力株式会社管内における電力需給が大変厳しいとの見通しを受け、「わかやま夏の節電アクションプラン」を策定、県民や県内事業者の皆様へ節電をお願いしてきました。

節電期間は、7月2日から9月7日の平日、節電目標は、当初一昨年比15%以上、7月10日の大飯原子力発電所3号機再起動後は10%以上としました。

今夏は、電力需給状況によっては計画停電に陥る恐れもありましたので、県では、万一の計画停電の準備も進めてきました。

また、県庁舎をはじめ県有施設での節電取り組みのほか、節電チラシの配布、事業者への訪問による節電ヒアリング、県立博物館や県立近代美術館等の入館料の割引、関西広域連合と共同実施の「節電トライアル

宝くじ」などに取り組みました。

節電期間中、関西電力管内では最大電力が一昨年比で約11%減少し、節電目標が達成できたものと考えております。

また、県庁での節電取り組みは、節電期間を通して、一昨年比18.5%の電力量削減を達成しました。

皆様の節電への御協力により、電力需給が逼迫することなく数値目標を掲げた節電期間を終えることができました。

これまでの県民・県内事業者の皆様への御協力に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも、電力需給状況の把握に努めながら、効果的な節電対策を検討して参ります。

## 【今夏の節電取り組み総括】

### 1. 家族でお出かけ節電キャンペーン

#### (1) 入館料割引県立施設入館者数

	近代美術館	県立博物館	紀伊風土記の丘	自然博物館
平成24年7月～8月	21,938	6,777	3,159	39,666
平成23年7月～8月	24,175	9,500	2,362	38,462
平成22年7月～8月	15,293	5,252	2,528	33,047

平成24年度は7月18日～8月31日の平日で料金50%割引を実施 平成23年度は8月に料金50%割引を実施（土日含む）

#### (2) 和歌山県内賛同事業者17事業者

- ◎和歌山グランドボウル（和歌山市）
- ◎近鉄百貨店和歌山店（和歌山市）
- ◎紀の川市歴史民族資料館（紀の川市）
- ◎財団法人和歌山県書道資料館（和歌山市）
- ◎和歌山県立図書館（和歌山市）
- ◎株式会社たかす（田辺市）
- ◎健康館・万葉館（和歌山市）
- ◎JAながみねファーマーズマーケット  
とれたて広場（海南市）
- ◎南方熊楠顕彰館（田辺市）
- ◎和歌山ミオ（和歌山市）
- ◎中紀スイミングクラブ（有田市）
- ◎串本応挙芦雪館（串本町）
- ◎わかやまスポーツ伝承館（和歌山市）
- ◎岩出市民族資料館（岩出市）
- ◎アルタミラ美術館（和歌山市）
- ◎高島屋和歌山店（和歌山市）
- ◎海南夢風鈴まつり実行委員会（海南市）

### 2. 節電トライアル宝くじ

和歌山県内からの賛同事業者（ ）内は提供景品等

- ◎ホテルアパローム紀の国（ホテル利用券（10,000円分）5名）
- ◎ふるさと和歌山わいわい市場（和歌山県特産釜揚げしらす（3,000円相当）5名）
- ◎ホテルグランヴィア和歌山（ランチバイキングペアチケット10組）
- ◎和歌山マリナーシティポルトヨーロッパ（ペア入園券50組）
- ◎アドベンチャーワールド（大人ペア入園券10組）
- ◎株式会社勝徳梅（梅干し3,000円相当10名）
- ◎中野BC株式会社（梅酒3,000円相当10名）

### 3. 県庁（本庁舎）における節電期間中の電力量実績（7月2日～9月7日）

	電力量1日平均値（kWh/day）	対平成22年削減率
平成24年	18,987	△18.5%
平成22年	23,283	

### 4. 事業者への節電協力要請

商工業団体等を通じた協力要請約900団体  
特に、事業者への直接訪問による協力要請・節電ヒアリング約200社

#### ●主なヒアリング内容

- 節電について
  - ・訪問企業の殆どが節電の意識があり、それぞれの対策を実施
  - ・生産部門では節電が厳しいところも、オフィス部門では精一杯努力
  - ・商工関係では目標10%以上が約6割

#### ○具体的な節電対策

- 〈オフィス〉①エアコンの温度設定、稼働時間の短縮、②照明の周引き、③始業前・昼休憩の消灯、OA機器の電源オフ等
- 〈工場等〉①省エネ設備（コンプレッサー等）への切替、使用機器の台数制限、②照明周引き、③昼休憩の消灯、未使用設備・機器の電源オフ
- 〈従業員〉①節電呼びかけ（朝礼等）、②クールビズ対応、③節電担当者等の設置等

（参考）関西電力和歌山支店の電力量実績

（平成24年7月分速報値）千kWh

	H22.7	H24.7	対H22年比
家庭用	188,699	164,835	87.4%
業務用	200,193	170,963	85.4%
産業用	189,988	182,255	95.9%
その他	7,968	7,055	88.5%
合計	586,847	525,108	89.5%

# 「見える・わかる・省エネ対策」

## うちエコ診断

ただいま全国で『うちエコ診断』を実施しています。希望するご家庭にうちエコ診断員が無料でお伺いし、専用ソフトを使ってご家庭のエネルギー状況を見える化し、CO<sub>2</sub>削減の目標を一緒に設定、ライフスタイルにあわせたオーダーメイド対策を提案する取り組みです。

和歌山県内でも活発な診断が行われています。今回は御坊市のうちエコ診断員、曾根由紀子さんに同行しました。

受診されたのは、同市にお住まいの橋本さん。「家族構成も少なく、エコな暮らしには結構自信があります」と。まずは、事前アンケートが専用ソフトに入力されているので、現状を1つずつ確認。冷蔵庫の大きさ、毎月の光熱費を順にチェックしていきます。

「もしも県内で、あなたと同じ家族構成が100世帯なら何位？」という想定で、受診者の順位がグラフとともにあらわれます。はたして結果は？なんと、62位。「えー？なんでなん？」とちょっとびっくりの様子。橋本さんは、エコ生活にはかなり意識が高く、ご飯はまとめて炊き小分けに冷凍保存、冬の暖房でも効率を良くするために扇風機を活用しているなどの工夫をされています。内訳を見ると、電気使用量が平均の倍近くあるようです。そこで診断員からのアドバイス。暖



冷房の時間短縮や生活習慣の改善などを提案されました。「結果にはちょっと驚いたけど、他の家庭との比較ができ、これからどうして行けばよいかという具体的なイメージがつかめた。無理なく楽しく取り組んでいきたい。」とのことでした。

「あなたのお家からCO<sub>2</sub>がたくさん出ているところは、どこですか？」と聞かれても、なかなかわかりにくいもの。ですが、この診断によってはっきりわかるので具体的な行動につなげられます。

あなたもぜひうちエコ診断を。

## わかやまエネルギー自立化促進コンソーシアム2012

### 「市民がすすめる木質バイオマス活用事業」実施へ総会開く

県センターは今年度の「地域活動支援・連携事業」を活用し、昨年に引き続き、和歌山県の特質を生かした「木質バイオマスエネルギー」に関わる活動を支援することになりました。

今年度のコンソーシアムには、紀南地域地球温暖化対策協議会など昨年の参加組織に加え、アーキ・クラフト建築事務所の野中恵治さんら、設計段階から薪ストーブ導入に積極的な方々が加わっていただいたこと、また、「NPO法人紀州えこなびと」や「はしもと里山保全アクションチーム」にも参加いただき県内広域での事業展開をめざしています。



コンソーシアムは9月5日に総会を開き、「薪づくり交流会」「木質バイオマス活用をすすめていくためのワークショップ」「薪ストーブやペレットストーブ



の展示会」、全体をすすめてゆく検討学習会など活動方針とその具体化にさっそくとりかかりました。

当面、9月30日、近畿大学生物理工学部教授の澤井徹氏を囲んで、「木質バイオマス固体燃料の可能性」をテーマに学習会を行うこと、また、10月14日、薪のユーザー及び薪ストーブ・ボイラー設置希望者などに呼びかけ、古座川ゆず平井の里を舞台に第1回目の「薪づくり交流会」を開催します。11月24・25日には田辺市龍神村で薪ストーブ・ペレットストーブなどの展示会を予定しています。





# 2府6県で連携し小水力普及へ

## 関西規模の推進協議会を設立

9月1日、関西2府4県に福井、三重の2県を加えた広域で、住民、地方公共団体、企業、研究機関等が連携して小水力発電の普及に向けた活動を繰り広げようと、「関西広域小水力利用推進協議会」が設立されました。

小水力発電は、巨大な貯水ダムを使用せず身近な水流のエネルギーを電気に変える比較的小規模の発電技術。降水量が大きく山がちな日本には適地が多く、有力な再生可能エネルギーのひとつと考えられています。

京都市内の龍谷大学ホールで開かれた設立総会には、会場一杯の約360人が参加。その場で多くの参加者が入会して規約や事業計画などを採択し、役員を選出して同協議会を発足させました。また、協議会設立に先立ち行われた3人の講師による講演では、小水力発電の歴史や先進地の状況が報告されたほか、全国11県と2地域で小水力を推進する地域組織が作られており、今回の協議会設立はそれに続くとともに、広域としては初の試みと、その意義が強調されました。

当日「設立趣意書」で確認された同協議会の活動方向は右の4点、また当面の事業は現地見学を交えた研究会を中心に進めることとしており、和歌山でも来年2月頃に研究会を開くことが提案されました。この研究会については、具体的な内容が決まり次第、お知らせします。



### 【当面の活動方向】

- 1) 関西2府4県及び、福井県・三重県において、地域のために小水力利用を行う事業者が円滑かつ効率的に事業を実施することができるよう「支援」する。
- 2) NPO法人、企業、官公庁、学校など、小水力利用に関心を持つあらゆる組織の人たちや個人が自由に情報交換を行う「場」を提供する。
- 3) 小水力利用により「地域社会の自立や強化」に貢献する。
- 4) 自治体等と連携しつつ、支援制度の創設や小水力利用の普及など社会基盤の強化を働きかけることができる「発信力」を持つ。

## 再生可能エネルギーの固定価格買取制度〈買取価格・期間〉



太陽光	10kW以上	10kW未満	10kW未満 (ダブル発電)
調達価格	42円	42円	34円
調達期間	20年間	10年間	10年間



地熱	15,000kW以上	15,000kW未満
調達価格	27.3円	42円
調達期間	15年間	15年間



風力	20kW以上	20kW未満
調達価格	23.1円	57.75円
調達期間	20年間	20年間



バイオマス	メタン発酵 ガス化発電	未利用木材 焼発電 (※1)	一般木材等 焼発電 (※2)	廃棄物 (木質以外) 焼発電 (※3)	リサイクル 木材焼発電 (※4)
	調達価格	40.95円	33.6円	25.2円	17.85円
調達期間	20年間	20年間	20年間	20年間	20年間



水力	1,000kW以上 30,000kW未満	200kW以上 1,000kW未満	200kW未満
調達価格	25.2円	30.45円	35.7円
調達期間	20年間	20年間	20年間

(※1) 間伐材や主伐材であって、後述する設備認定において未利用であることが確認できたものに由来するバイオマスを焼发电させる発電

(※2) 未利用木材及びリサイクル木材以外の木材(製材端材や輸入木材)並びにパーム椰子殻、稲わら・もみ殻に由来するバイオマスを焼发电させる発電

(※3) 一般廃棄物、下水汚泥、食品廃棄物、RDF、RPF、黒液等の廃棄物由来のバイオマスを焼发电させる発電

(※4) 建設廃材に由来するバイオマスを焼发电させる発電

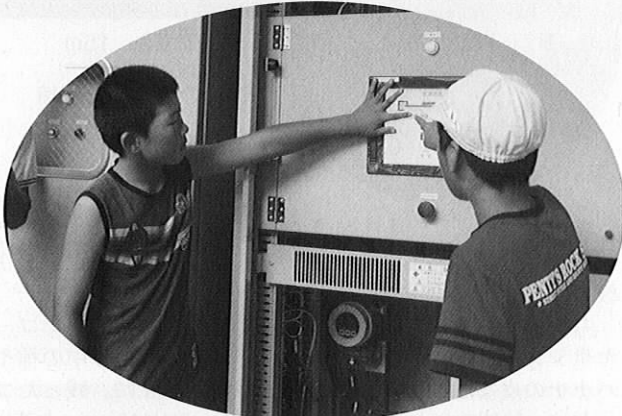


# 島ノ瀬ダム 小水力発電開始

和歌山県がみなべ町東神野川の島ノ瀬ダムに整備した小水力発電施設が完成し、9月6日、その「見学会」が県などの主催でおこなわれ、地元の清川小学校、高城小学校の児童や住民のみなさん約100人が参加しました。その中で、清川小学校6年生の下村健大君と高城小学校5年生の畑谷潤君が代表して発電機の運転スイッチを「ON」。この日から発電が開始されました。



独で設置する場合も補助金対象に)を機に、地球温暖化対策と農家経営の安定化をめざす「和歌山県農村地域エコエネルギー導入プロジェクト」に本事業を位置づけ、そのプロジェクト初の事業として実施したものです。事業費約1億4千万円(50%が国の補助金)で設置。8月22日、施設は県から同改良区に移譲され、今後、同改良区が所有し、管理・運営します。

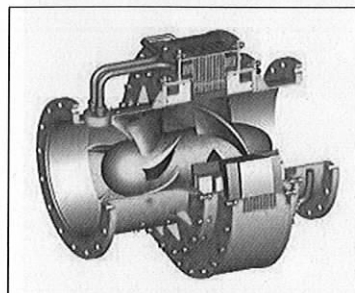
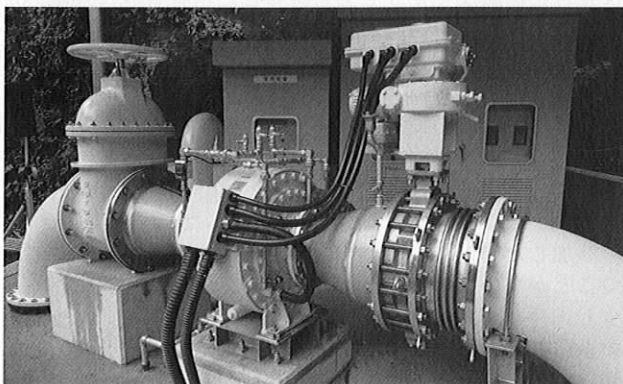


この小水力発電は、島ノ瀬ダムから常時放流されている有効落差28.2mの水(最大0.68m<sup>3</sup>/秒)を活用し、最大出力140kW、年間約75万kWhの発電能力がある設備です。機種は川崎重工(株)の「発電機一体型リング水車」を採用(全国で3番目)。同社のホームページには、「従来のインライン型水車に比べて半分以下のサイズ」で、しかも「水潤滑軸受の採用により固体接触が生じないため、騒音や振動がほとんど発生しません」とあります。

島ノ瀬ダムを管理する南紀用水土地改良区は、ダムや関連施設の管理費用や梅・みかん畑などへ水を送る揚水ポンプ電気代など、受益農家の負担軽減のために、かねてから水力発電設置を望んでいました。和歌山県は、平成21年度の農林水産省国庫補助金制度の改正(建設時に発電施設がなかったダムにも発電施設を単

今年7月から再生可能エネルギー発電の「固定価格買取制度」が始まりましたが、35.7円/kWhで売電でき、年間75万kWh発電できれば2,600万円強の売上げになり、農家の負担を軽減することになります。また、同改良区によれば、畑地への揚水ポンプの電気使用量は平成21年で174万kWh、22年では135万kWhとなっており、小水力発電でその約半分近くを発電することになり、温暖化対策としては、年416t<sup>1)</sup>のCO<sub>2</sub>を削減(原単位0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhで計算)することになります。

「見学会」では、みなべ町の小谷町長が「地球環境にやさしい、クリーン発電が今日からはじまる。この小水力発電で家庭180戸分の電気がつくられる」と挨拶。小水力発電でつくった電気を使い、海南市出身の松尾泰伸さんによるシンセサイザーコンサートも行われました。



川崎重工業(株)HPより

県内にはまだまだたくさん未利用の再生可能エネルギーが存在します。県民の知恵を寄せ合い、これを機に再生可能エネルギーの活用を大きく広げましょう。





## 「みみずりサイクルBOX」でつくった土使い ゴーヤなどのグリーンカーテンに挑戦

「今年は暑くなる」とのニュースが連日流れる6月末頃、(有)銀徳さんから「社屋の周囲にグリーンカーテンをつくって欲しい」と頼まれ、早速、会社の周りを測り、深底のプランター24個、鉢底石8袋を購入するとともに「土づくり」にかかりました。会社の裏庭に3年前から設置している、「みみずりサイクルBOX」には、栄養たっぷりの「ミミズ土」が。それを活用し、プランターに、鉢底石、竹炭、パークチップ、ミミズ土、パークチップを順に入れ、3~4日寝かせて土作りは完成。「紀ノ川農協」、「めっけもん広場」を廻って、ひょうたん2本、へちま2本、ゴーヤ44本を仕入れ、プランターに定植。植えた時期が少し遅かったため、早く成長するようにとわき芽を摘み、グングン伸びました。

### 猛暑・節電対策に効果あり！

世話の甲斐あり、約1ヶ月ほどで3mくらいの高さになり、社屋の壁や窓に日陰をつくり、実もつけはじめました。今年は予想を超える猛暑。土曜日の休み返上で仕事をしたため、7月中旬~8月中旬(8月分)の電気使用量は昨年比プラス455kWhに。ところがゴーヤカーテンが伸びてきた8月、同じように働いたにもかかわらず9月分の使用量は前年比マイナス22kWhに。グリーンカーテンの効果あり！社員のみなさんの感想も、「見た目も、気分的に涼しい」「植物に興味なかったのですが、毎日お世話する事でグリーンカーテンの成長が楽しみになった」「グリーンカ



全体長さ 15m  
(西側9m、南側6m)  
・プランター 24個  
・ゴーヤ 44本  
・ひょうたん 2本  
・へちま 2本

ーテンのおかげで西日が遮られ助かった」など。ただ、「来年は、窓は除いてほしい(暗い)」との意見もあり、教訓にしたいと思います。

ちなみに、獲れたゴーヤは、チャムプルやバナナでゴーヤ生ジュース(これが意外に美味しい)で使い、中の種やバナナの皮などは、みみずりサイクルBOXに。残ったゴーヤは、輪切りにして天日干し(約3日~5日)にし、ゴーヤ茶にして飲んでいます。

(紀の川市地球温暖化対策協議会 推進員 山田真器子)

### 親子でチャレンジ!

## 夏休みエコ工作&エコ料理講習会

(県センターと「大阪ガス デイリバ和歌山」が共催)

8月10日。夏休み真っ只中、「エコ」をテーマに、親子で楽しめるイベントを開催しました。「食育」と「エネルギー」をテーマにエコな取り組みに力を入れている、大阪ガスとの共通のテーマから今回のコラボが実現しました。

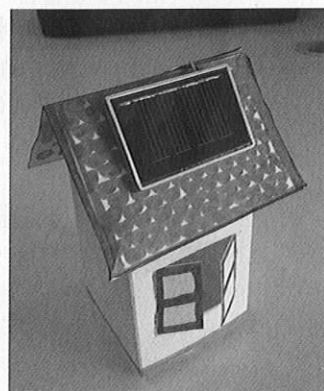
前半はエコ工作。太陽の光がエネルギーに変わるしくみを学び、ミニソーラーハウスを製作しました。牛乳の空きパックを使ってそれぞれ思い思いの窓や扉をつくり、色を



塗ったり紙を貼ったりして完成。参加した小学3年の女の子は「かわいいのが作れて良かった。太陽の光でためた電気でライトが明るくなるしくみも分かった」と嬉しそうでした。

続いて、料理講習会で食材を無駄なく使う工夫を凝らしたエコ料理に挑戦。加熱の際、鍋からの炎あふれを調節することでガスを無駄なく使うなど、調理手順にもエコを取り入れた内容でした。大阪ガスの担当者は「食育とは、食材選びから後片付けまで一連の流れの中にあります。旬の食材を選び、地元で消費することでエネルギーを抑えることができます。こういう機会を通じて、毎日の食事作りの中に「エコ習慣」の意識を持っていただければ。」と話していました。

参加したお母さんは「普段、息子はあまりキッチンに立つことがない。楽しそうに取り組んでいる姿を見て、もう少しお手伝いの機会を作れるかも。」と喜んでいました。できることから楽しく家庭で取り組んでいく、そんなきっかけづくりになった1日でした。



# 推進員さん“ひょうこい”訪問記<sup>②</sup>

紀の川市

井上 雅夫さん



紀の川市の井上雅夫さんは推進員第5期生。紀州富士の名でも知られる竜門山北面のふもとで、キウイフルーツ、水稲、タマネギの有機栽培をはじめ、手広く農業に携わっておられる専業農家です。

推進員になるきっかけは、井上さんも参加する有機農家グループで会計などの実務を担当しておられた推進員のKさんに、温暖化の勉強をしてみませんかと誘われたことでした。

「地球温暖化って、農家はたいがい実感してるんだと思うかな」「虫の発生が早よなってなんか変やな〜とか、秋の気温がいつまでも高いんで、タマネギの種まきでも今までより遅らさんと「とう立ち」（茎が伸びること）して商品にならんとか、肌身に感じる人が多いからね」「こんなことが年によって違うから、なかなか対応はしきれやんけど、とにかく原因の温暖化の勉強は必要やね」「それと、小水力発電の水車をうちの土地改良区の農業用水路に設置できやんか、調べてみたいというのもあったんですわ」

それで、和歌山県地球温暖化防止活動推進員の養成講座に。

「地球温暖化のデータとか原因とか、知ることができて有効だったな」「やっぱりグローバルな知識って大事やね、そんな地球レベルの問題と、いま僕らが毎日感じることがしっかり結びついたよ」

推進員になってから、農閑期を中心に紀の川市地球温暖化対策協議会の活動への参加もしていますが、ご自身では、環境保全型農業にしっかり取り組むことも活動のうちと考えておられるそうです。

「有機栽培や特別栽培（普通栽培に比べ農薬と化学肥料の使用量を共に半減以下にする栽培方法）なら、普通の農業に比べて資材の原料や機械で使う化石燃料

も減らせるでしょう。毎日やってることやからね、これが一番です」

ご近所の水車は？

「水車は昔懐かしいというか、子どもの頃、和歌山市の和佐あたりかな、紀ノ川の堤防から見えてる水車があったよ、あれを復活させたいんやなあ」「問題は季節通水で10月には水が止まってしまうこと、まず一年中水を通してもらえるようにするところからやね」

その可能性は？

「そやね、ひとりではなんぼやってもね、やっぱり理解者を広げていかんと」「原発のこともあって、何とかせんなんて思てる人は増えてるはずやからね、今やったら広げられると違うかな」「みんなの知恵を集めたら必ず作れると思うよ」

和歌山県内で活動しておられる他の推進員の方にひと言。

「そんなえらそうに言えるほど活動してませんけど、やっぱり自分からまず動き出すことやと思うんやよ」「市町村のイベントや学校の行事に参加するんでもいいから、とにかくできることで動き出したら、人とも知り合えるし、できることの範囲も広がる」という井上さん、「僕もまたこれからやるしい」と、農作業で日焼けした笑顔を少しはにかませながら話を結んでくださいました。



## なるほど ガ・ワード STOP温暖化・焦点の言葉<sup>②</sup>

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

### 【小水力発電】

水力発電と聞くと黒部ダムを連想しますが、あのよう到大規模な人工貯水池に水を貯めて発電するのではなく、「流れ込み式」または「水路式」といって、河川の水をせき止めずそのまま利用する発電方式を小水力発電といいます（ただし、既存の小さなダムで余った水を使用

るケースもあります）。

発電の規模について明確な定義はありませんが、世界ではおおむね1万kW以下のものを小水力としています。日本で一般的には2000kW以下を小水力と呼んでおり、さらに100kW未満のものをマイクロ水力と呼ぶ場合もあります。

小水力は、一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道など、現在無駄に捨てられているエネルギーを有効利用する環境に優しい技術です。多雨で山がちな和歌山には適地も多くあると見込まれることから、今後の普及に期待が寄せられています。







## 秋のホタルを見に行こう!

青く神秘的な光を放ついきものをご存知ですか?実は和歌山市内でみることができます。それはウミホタルと呼ばれる米粒大の小さな生きものです。秋の夜長と一緒に観察しましょう。

**日時** 10月12日(金) 18:00~  
10月13日(土) 18:00~ (小雨決行)

**場所** 片男波海水浴場

**参加費** 親子2名1,000円  
(1名追加につき300円)(材料費・保険代)

**定員** 各日・8組16名(先着順)

申込み: NPOわかやま環境ネットワーク  
電話: 073-499-4734 (月~金10-17時)

## 集まれ!

### 薪ストーブをもっている人、欲しい人 「薪づくり交流会」やります!

**日時** 10月14日(日) 午前10時~午後3時(予定)

**場所** 「古座川ゆず平井の里」(古座川町平井)

参加対象者: 薪ストーブ・ボイラーや木質燃料に興味のある方。  
チェーンソーや斧を使うため小・中学生の参加は不可(見学OK)。

参加費: 無料ですが、必ず申込が必要です。  
内容: みんなで薪づくり体験をします。つくった薪はみんなで分け合います。  
薪や木質燃料を使う人のネットワークづくりをめざします。

主催: わかやまエネルギー自立化促進コンソーシアム2012  
申込先: NPOわかやま環境ネットワーク 電話073-499-4734

■第24回「星空の街・あおぞらの街」全国大会in日高川町イベント■

## 地球環境保全における 森林の役割を考える シンポジウム

**日時** 10月28日(日)

**場所** 日高川交流センター他 **入場無料**

主催: 日高川町

■近畿の環境団体情報交流会■

## 自然エネルギーシンポ

(里山エネルギーを中心として)

**日時** 11月17日(土) 12:30~17:30

**場所** ピアザ淡海 2F・207号会議室  
滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号

- 対象: 環境市民活動団体・行政・企業または、環境市民活動に関心のある個人
- 定員: 60名(先着)
- 参加費: 一般1000円、学生500円、会員無料

主催: NPO法人エコネット近畿、一般財団法人セブン・イレブン記念財団

源流から河口までのすべての地域をエコランドに切り拓こう。子どもの未来。未来世代の子どもたちが安心して活躍できる環境づくりを。

## 第2回 きのかわ環境フェア

**日時** 2012年11月25日(日) 開催

**場所** 県立橋本体育館

「学びの日」開催テーマである「みがけ!五感。みがこう!五感。」に合わせ、市民の温暖化防止活動や自治体のエコな取り組み紹介、オーガニック食品・食材の展示販売や企業の「グリーン商品」の展示販売など、様々な環境展示とともに、参加型の学習展示を行います。

主催: きのかわ環境フェア実行委員会、伊都橋本地球温暖化対策協議会(エコランドいとはしもと)

お問い合わせ: 伊都橋本地球温暖化対策協議会

TEL 0736-42-4102 ケイタイ 090-4760-0277 (佐藤) FAX 0736-26-7987

【発行】

和歌山県環境生活総務課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL: 073-441-2690 FAX: 073-433-3590  
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

【編集・お問い合わせ】

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

〒641-0014 和歌山市毛見996-2  
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735  
mail: wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。